

# KOKUSAI

★発行：国際運輸株式会社★ VOL.19



代表取締役会長  
前田一彦

去る8月24日、海上自衛隊の教育隊で新隊員の修業式がありました。総員56名、今年4月8日に入隊し4ヶ月弱の期間で心身共に鍛えられ、立派な隊員として単立っていきました。4ヶ月で斯くも変わるものかと感動しました。姿勢、動作、そして顔つきまで精悍になって堂々たるものでした。人間若い時、一時期強制的な規律を守るための訓練が必要なのではないかと思つた次第です。

又、隊員代表の挨拶もすばらしく、立派に修業式を迎える事が出来たことに、指導にあたった教官の皆さんや、温かく支持してくれた両親や家族の皆さんに厚くお礼を言っていました。将来の海上自衛隊の背負う意気込みも十分感じられたものでした。

また、加藤佐世保地方総監の訓辞も胸に伝わるお話で、新隊員も十分感じ取つたと思います。要旨は、精強なる

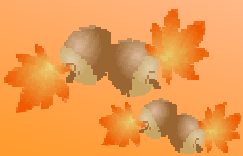
隊員であると同時に立派な社会人たれ、と言う事で、これは一般社会でも規範として、常々考えるべき事であると思います。私たちは会社で少しでも業績を伸ばすために、一生懸命働いています。日々の業務に手抜きはできません。少しずつでも前に進まなければ会社の発展は望めません。そしてそれに伴うものとして信用、信頼があります。顧客や地域社会の皆さんの信用、信頼がなくては、会社は存続の基盤が保てません。そして、それは会社の全員が築くものなのです。私たち一人一人が社会人として常に恥じない行動をとり、少しでも地域社会に對し貢献出来るよう努めるべきだと思います。社内にあつても職責の違いはあつても同僚の良き理解者になり、助け合つてこそ業績の発展も期待できるものと信じています。

私は今、会社は良き団結の元にあると思つています。今後もより良き展望を期して、力を合わせ頑張つていきたいと思います。

## 「自分を知る」

「明」とは、目が見えるという事である。さらに言えば読みが深いこと、あるいは深い洞察力といつてもいいかもしれない。「明」に近いもので「智」という言葉がある。どちらも読みの深いことを意味しているのだが、両者を比較すると「明」の方が「智」よりも一段高いレベルの能力をさしているようだ。

人を知ることがはまだやさしい。それよりはるかに難しいのは、自分を知ることである。人を知るためには、「智」があれば十分だが、自分を知るためには「明」を必要とするのだという。「孫子」は「彼を知り、己を知れば百戦して殆うからず」と語っている。相手を知り、自分を知つたうえで戦えば、方に一つも負ける気づかいはないというのだ。してみると、この「明」というのは、厳しい現実を生き残るためにはどうしても必要な条件だということになる。



# 朝の床磨き

事務所のスタッフ以外の皆さんも知っての通り、我が社では朝の 7:30 から全員で掃除をしています。ずっと以前は業者に頼んでいましたが、今ではそれぞれエリアによって担当を振り分けてあり、何と言っても床のワックスがけが花形作業(?)になっているのです。

実際にやった人は良く分かっていると思いますが、1m 四方ほどのごく狭いエリアを磨き上げるという単純な作業なのに、ムラのない綺麗な艶を出そうとするとこれがなかなか大変!!

あえて実名は伏せておきますが、T 氏の創り出す完璧な艶に何人の人が挑戦し、そして敗れていった事でしょうか。しかし作業の内容に秘密はありません。

と言うか、やっている事は誰でも一部始終を見る事ができるわけですから、真似をすれば良いだけの事なのです。でもどうしても追いつけない…実に摩訶不思議な???

でも本当の理由は至って簡単、T 氏は「手を抜いていない」だけなのです。



代表取締役社長  
前田和隆

- 床の汚れを確実に取る。(汚れがワックスの下にあれば必ずはく離作業をする)
- ワックスは一度に厚く塗らず、薄く丁寧に何度も何度も塗る。
- しっかり乾かす。
- 光沢の具合を確認しながら、必要であれば数日間繰り返して塗る。



多分(本人には未確認)これらの作業を「手を抜かず」丁寧にやっているだけで、特別な技や道具を使っているわけではありません。なのに誰も敵わない…仕事も同じですね。やるべき事を手を抜かず日々続けている人にライバルはいません。特別な能力は天賦の物、特別な努力も短期間には出来ても継続は大変。でも当たり前の事をキチンとやり続ける事は誰にでも出来ます。でもたいていの人はずいついつ手を抜いてしまうので、差がついてしまうのです。

- 無事故のコツは、注意すべき時に注意を怠らない事。
- 営業はお客様に好まれるよう挨拶と身なりを正し、まず話を聞く側になる事。
- 事務的ミスの防止は、必ず見直す事。
- 上司はいつも安定した明るい態度で部下に接し、まず部下の話を聞く事。
- 部下は良い事も悪い事もありのままを上司に報告する事。



これだけをやり続ける事で、我が社にはライバルがいなくなります。  
我々の道標は「輝く床」に象徴されている…と言っては過言でしょうか?(笑)

# 思 いや い

遊ぼうっていうと遊ぼうっていう。  
 ばかっていうとばかっていう。  
 もう遊ばないっていうと遊ばないっていう。  
 そして、あとでさみしくなって、  
 ごめんねっていうとごめんねっていう。  
 こだまでしょうか、いいえ、誰でも。



常務取締役  
 中園嘉臣

皆さん、東日本大震災のあと、しばらく流れていたACの commercials を覚えているでしょうか。「金子みすゞ」という詩人の「こだまでしょうか」を。

震災後、この詩を聞いて何かを気づかされた人も多いのではないのでしょうか。「金子みすゞ」さんは、1903年山口県で生まれ、わずか26歳の若さで亡くなったそうです。戦後60年以上を経過し、右肩上がりの経済成長ばかりを目指していた日本の企業が、又成果主義ばかり求めていた日本国民が、今、違う方向性を改めて気付かされたような気がします。

震災の後、おそらく日本国民全員が、被災地、被災者のために何かをしなければとの思いにかられたのではないのでしょうか。現在に於いても、関東他各地より、ボランティアで週末のみでも被災地に入り、何らかの支援をされているとの話を聞きます。そこには、現地の方に何かお役に立てればという思い以外に何もないと思います。今回の件を今の経済と結びつけると、多少無理があるような気がします、成果主義を求めた結果が、現在起きている事件、事故、又はうつ病、自殺等につながっているような気がしてなりません。

今、多くの会社が過去の日本の終身雇用を見直し始めているそうです。自社に於いても、成果主義全部を否定する訳ではありませんが、定年後でも体力の続く限り、長く勤められる会社でありたいと願っています。他人は自分を映す鏡といいます。冒頭の詩のように、人に接する時に、憎しみを込めた言葉をかければ、その通りに返って来ます。愛情を込めた言葉をかければ、またその通りに返って来ます。思いやりという事を、約100年前の詩人に気づかされたような気がします。

## 「明なれども察に及ばず」

「宋名臣言行録」に「人至って察なれば、則ち徒なし」とある。「察」の行きつくところ、放っておいても構わないような小さな問題まで、ほじくり回したり、無用の詮索をしたりすることになりかねない。そうになると、「徒なし」、すなわち周りに人が集まってもなくなるというのだ。これでは弊害の方が大きくなる。それを警告しているのが、やはり「宋名臣言行録」にある「明なれども察に及ばず」という言葉である。これが理想なのだという。ある評論家が、女房には4つのタイプがあると語っていた。

- ・ かしこかしこ
- ・ かしこあほう
- ・ あほうかしこ
- ・ あほうあほう

「かしこかしこ」は女房にしたら、うっとうしくてやりきれない。「あほうあほう」も困る。「かしこあほう」は、さかしそうだが肝心なところが抜けている。理想は3番目の「あほうかしこ」なのだという。これは一見したところ抜けているようにみえるが、その実、締めるところは締め、押えるところは押えている。なるほど、女房に安心して家庭をまかせられるタイプかもしれない。

「明」は、リーダーにとって欠くことのできない条件である。だが、明が過ぎて察になってのでは困る。つまりは「あほうかしこ」を心掛けるくらいがちょうどいいのかもしれない。

リーダー



取締役 梱包部部长

萩坂貴徳

理想の上司とは、とか、理想の

リーダー像、部下の上手な使い方、等々、書店に行くと、リーダーや上司に関する書物を多く目にします。私も、勉強になればと思います。そういった参考本を買って読んだりもしますが、内容によっては、なんとなく薄っぺらに感じてしまうときがあります。

単純に考えても、人を扱うテクニクだけの人より、人格的に敬える人の話に耳が傾きますよね。

ある同僚も、「実際に作業クルーを編成した場合、責任者Aさんの指示はよく聞くが、責任者Bさんの指示には異論が出ることもある」というようなことを言っていました。

とはいえ、人を動かす責任者の皆さんの、日々の苦勞はいかばかりかと思えます。

ところで、皆さんは、人としての品位とか品格について考えたことがありますか。

いろんな方とお会いした際、「この人は上品な方だな」とか、「話し方に品がある」等、様々に、品というものを感ずるシーンがあります。

以前、当社の前田会長から「これ、いい本だよ、読んでみては」と、曾野綾子さんの『いい人をやめると楽になる』という本を頂きました。

その中の一節で、「品位というものは、比較的地味な服装からにじみ出ることが多い。」という文章に、私は、なるほどと感銘を受けました。

もちろん、派手なものを身につけて自己を主張することに意味がないとは言えませんが、人目を引くだけの服装では、何の意味もありません。

人の内面も同様で、手柄を口にしたたり、自分の思いを強く押し出すあまりに、言葉が乱暴になったり、また中には、組織の団結を忘れてしまい、ルールや人を飛び越す動きをすることがあります。しかし、

そういうのは、ちよつといただけませんね。

人よりでしゃばらないこと、功績を人に譲る事が出来ること、黙って

いること、ひそかに善行をなすこと、常に下座行を忘れないこと、などは、すべて力を持つているから、できる行為であり、また、それが本当の品位であり、上司としての手本なのかもしれません。

余談ですが、六年ほど前に、私は二十年以上、吸い続けたたばこを、見た目だけでも品良く思われないと、ある日を境に止めてしまいました。しかし、今考えれば、内面的に何かが変わるわけではなく、たばこを吸わないことが、直接品の善し悪しとは無関係なわけで・・・。

しかし、ちよつとだけ自分の努力を話したいと思ひまして・・・。

こんなところが私に品がないんですね。

ところで、曾野さんはもう一つ、こういう事も書いておられました。

「人がしてもしないし、人がしなくてもする、というのが勇氣であり、品位である。」

実際に人が関心を持つのは、評判であり、風評であります。会社に置き換えて考えた場合、人の評判で右や左に上司の心が揺れ動いてはさびしいかぎりです。

例えば、「あいつは、仕事ができ

ない、ダメなやつだ」等々、風評で、正確な評価や判断ができていないとしたら、上司としての品位どころか、人として失格かもしれません。とにかく上司たる者、リーダーとしての百のテクニクを身につけるより、決して阿諛迎合することなく、自分自身が品格を身につけて、「人がしてもしないし、人がしなくてもする勇氣や、品位」を、さりげなく出せる人になりたいものです。



やる気



運輸部  
北川 淳二



国際運輸に入社して、早くも1年以上が経ちました。ここ数年の間で私は色々なことを考えさせられ、自分自身大きく変化する事が出来たと思います。私事ではございますが、私の人生を一番大きく変えてくれた出来事は、守るべき者、娘の誕生です。お恥かしい話ですが、今まで自分勝手に自由奔放な私でしたが、娘たちの誕生を切に変わってこれたと思います。結婚し夫婦生活もそうですが、社会においても縁があつて出会いがあり、お互いに助け合つていかなければとしみじみ思います。自分だけの為でなく、誰かの為に自分がやらなきゃ誰がやる!!文を読めば、キレイ事と思われるでしょうが、日々仕事を行う中で、この作業をして誰かの為になる、又自分の為になる。自分がやる事で、きつと誰かの役に立っているはず、そう考えながら今一生懸命働いております。上の娘が今年3歳に、下の娘が来年1歳になろうとしています。二人とも色々な事にチャレンジし、もの凄い勢いで色々なことを吸収し、日々成長しております。そういう娘を見てみると、私も心熱く刺激されます。私も娘達を見習い、色々な事にチャレンジし必要とされる人材を目指し、自己開発の為、又会社の発展に貢献できるように日々努力していきたいと思ひます。



運輸部 主任  
島内 貴之

私が入社して12年が経ちました。運輸部乗務員を3年程、梱包部引越業務を9年、色々な経験をさせていただきました。今年の4月からは運輸部の管理職として更に新しい業務を行う様になりました。今回の業務に於いてはお客様と直接、接する機会が多く、細かい所までの心配りが必要となり、社内業務に於いてはたくさん覚える事が有り、悪戦苦闘の日々を送っております。まだまだ分から

ない事ばかりで、力不足ですが少しでも早くこの経験を生かせる様にす。入社当時は、会社の仕組み、仕事の作業内容、訪問先でのお客様への対応等、いろいろと覚える事ばかりで大変苦労しました。戸惑いや不安を抱えながら、なかなか自分の納得いくような仕事が出来なかつたように思ひます。最近になつてやつと、余裕を持つて自分なりに考えながら作業ができるようになってきました。とは言つても、まだまだわからないことばかりで皆に聞きながら、教わりながらの毎日です。これからも、与えられた仕事を安全に確実にこなして、少しでも会社の利益に繋がるよう、そして自分の為にも頑張つていきたいと思ひます。



運輸部  
島中 哲也



梱包部  
福島 翔平

私は、この会社に入つて約1年半くらいです。最初は引越の仕事をするとか全く考えていませんでした。でもこの会社に入つて引越の仕事をするつて聞いた時は、かなり自信が無かつたけど、みなさんが優しくかつり教えてくれたのですごく安心できて、自分なりに結構早く引越の仕事の覚えられたんじゃないかなと思ひます。でもまだまだ覚えることがたくさんあります。だからいっぱいこの仕事について覚えていきたいと思ひます。あと、野球をしていてと言つたらすぐ、社会人のソフトに誘われて今では3チームも入つてしまつて、正直ちよつとキツイですけど、そこら辺も頑張つていきたいと思ひます。これからもいっぱい迷惑をかけると思ひますけど、よろしくお願ひします。



皆様、暑い日が続いていますが、日々のお仕事お疲れ様です。  
私も国際運輸に入社し、1年3ヶ月経とうとしております。最初の頃は何もわからず、手とり足とり教えて頂きました。最初は「こんなきつい仕事を続けられるのだろうか」と心配でした。英語もできず、入社した頃は、まだ運転免許も持っていませんでした。一番心配したのは体力の事でした。私は今まで体力仕事をあまりしなかったからです。でも、上司の方や先輩方に助けてもらいながら、日々勉強し体力もついてきていると感じています。まだまだ半人前の私ですが、上司や先輩方に一つ一つ教わりながら成長し、同期の二人に負けない様に頑張っています。

話しは変わりますが、来年の2月に結婚します。これまでは何かのために頑張ることが無かったのですが、これからは家族のために今以上に頑張りますので、皆様、これからもよろしくお願いいたします。大変な文章で申し訳ありませんでした。



梱包部  
野原 拓郎



梱包部  
吉田 理子

まもなく入社して3ヶ月が過ぎようとしています。最初は初めて聞く用語や内容で、何が何だかわからない状態でした。1ヶ月、2ヶ月と過ぎていくうちに、少しずつ今まででこのことが繋がっていき、理解しながら事務処理が出来るようになってきました。しかしながら、たくさんさんのことを同時にすることが苦手な私は、急ぎの内容が入ると慌ててしまい、結果、何かしらの失敗をしてしまい、周囲の方々に

迷惑をかけることがありました。それでも、皆さんが常に温かく指導してくださり、そして時には励ましの言葉をかけてくださり、本当に感謝しています。上手くいかなことが続いたりすると、つい他人と比べて、「私は馬鹿だな」と思い、自分が嫌になってしまいうことがあります。

そんな時、ある本の中の一つの詩に目が止まりました。それは、

「今の自分が好きだから、  
今日に続く明日が楽しみ」  
です。

その詩は、自分を「好きだ」と言えることは、人生を照らす明かりであり、明かりがなければ未来は暗いまま。長所も欠点も含めた自分を認め、その明かりで未来を輝かせて下さい、という内容でした。

毎日慌しく生活をしていく中では、なかなか気持ち切り替えることは難しいことですが、そんな時だからこそ、深呼吸して少し落ち着いて、この言葉を思い出したいなと思えました。そして、他人と比べ

てばかりせず、まず今の自分を受け入れ、明日が来るのを楽しみに思えるようにできたらいいなと思います。

今の私は、多くの人達に支えられて過ごしています。そのことに常に感謝していたいと思います。そして、今はまだ自分に余裕がありませんが、いつか誰かを励まし、支えてあげられる人になることが目標です。その時は、自然と明日を楽しみに思える自分がいるのだろうなと思います。



◎ 編集後記 ◎

広田本社前のキンモクセイの甘い香りがふわあと感じられる時期になりました。キンモクセイの花言葉は、「謙遜・真実・変わらぬ魅力 etc...」だそうです。あの香りの割には、謙遜というのはちょっと意外ですね！でも、キンモクセイの花言葉のように、謙遜さを忘れず、魅力のある人になりたいものです。（編集部）

